

地震災害

- 【地震による被害想定概要】
- ・地震による揺れは最大震度5強とやや大きく、ブロック塀や家具の転倒等により被害が発生する可能性があります。
 - ・地区内の広い範囲で液状化が想定され、建物の沈下・傾斜や道路の段差発生等の被害が想定されます。

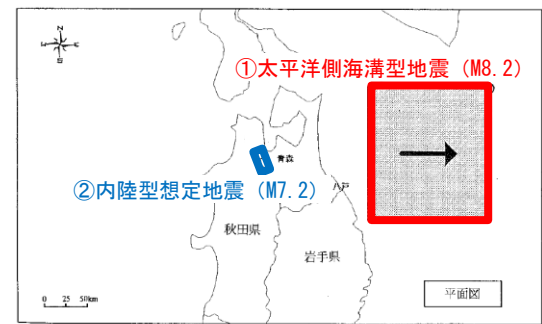


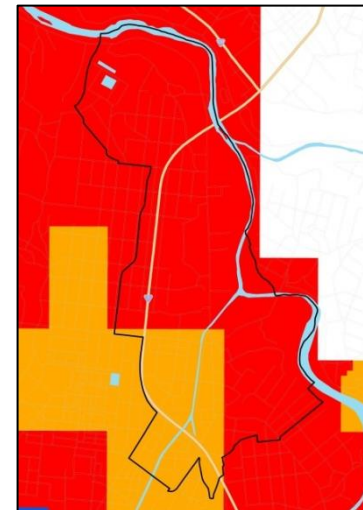
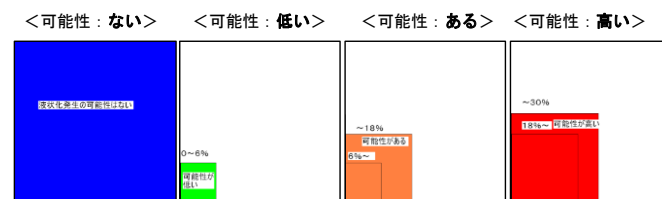
図 想定する地震の震源位置

※平成 7,8 年度に実施された「青森県地震・津波被害想定調査」において検討された上記の2地震を想定しています。

2. 液状化危険度（①太平洋側海溝型地震(M8.2)）

※液状化危険度は、液状化の可能性を表したものであり、液状化による被害の程度を表したものではありません。

ある範囲内において液状化が発生する面積の割合を緑色<橙色<赤色の順に表示しています。青色の範囲は、液状化の可能性はないと考えられます。

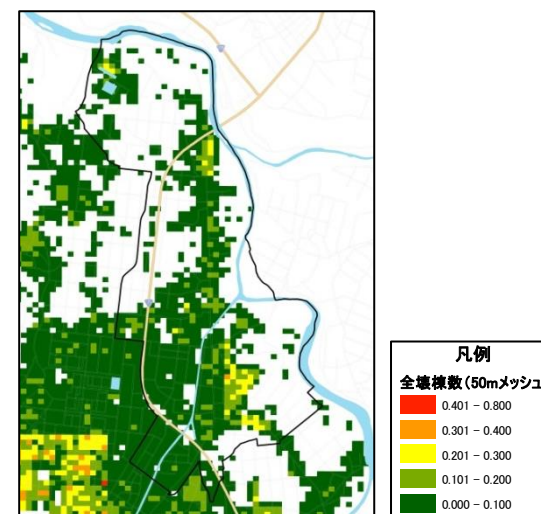


3. 建物被害(①太平洋側海溝型地震(M8.2))

震度6弱以上の地域がないため、揺れによる建物被害はほとんど想定されていませんが、液状化により142棟の建物の全半壊が想定されています。

また、揺れによる建物全壊が0棟のため、人的被害は想定されていません。

		建物棟数
揺れ	全壊棟数	0
	半壊棟数	4
液状化	全壊棟数	56
	半壊棟数	86
合計		146

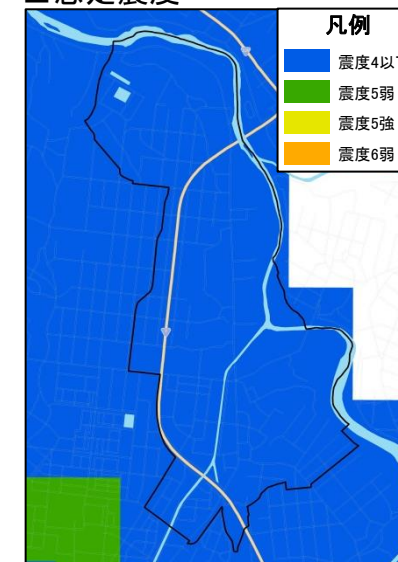


※右の図は、揺れと液状化による全壊棟数について、50m 四方ごとの値を示しています。

上の表は、地区内全体の全壊棟数、半壊棟数の合計を算出したものです。

【参考】②内陸型想定地震(M7.2)の場合

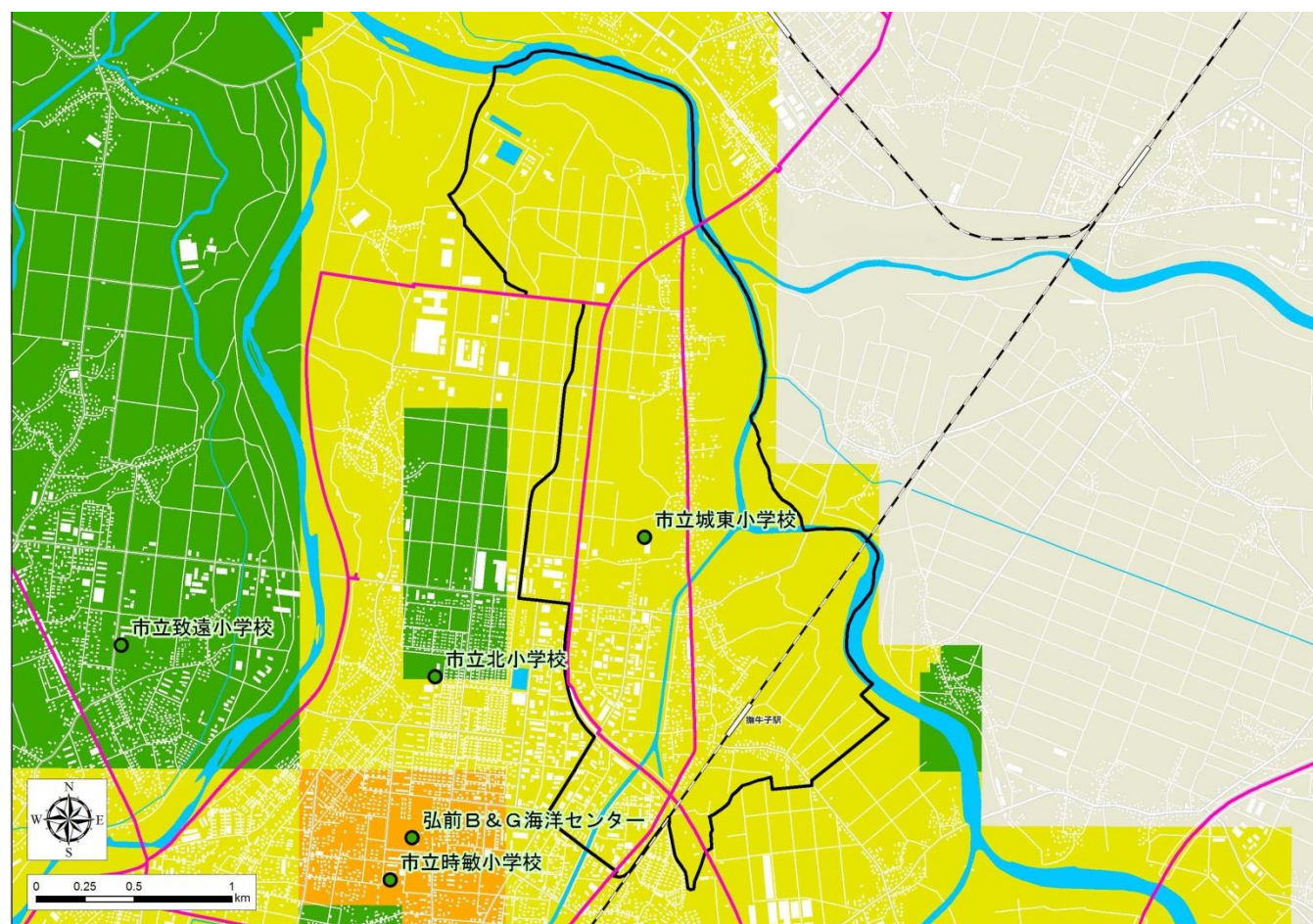
■想定震度



■液状化危険度



※②内陸型想定地震において、建物被害、液状化発生の可能性はありません。



震度の凡例

震度4	座りの悪い置物が倒れることがある
震度5弱	固定していない家具が倒れることがある
震度5強	ブロック塀が崩れることがある
震度6弱	耐震性の低い木造建物は倒れるものがある

施設の凡例

避難所	災害発生時等に、市民の生命、身体を保護するための施設
緊急輸送道路	災害発生直後の救助活動や物資輸送等の応急対策を円滑に行うために指定された道路です。この道路が災害により通行不能となると、必要な応急対策の実施に支障をきたします。